

はじめに

平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分に三陸沖で M9.0 の地震が発生し、その後の巨大な津波と群発性地震はより多くの被害をもたらしました。また、福島第一原子力発電所の原子炉冷却機能を失い、未曾有の原子力災害をまねきました。

被災されました方々には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

福岡市保健環境研究所は、昭和 45 年に保健所の検査室を統合して衛生試験所として発足した後、平成 9 年には現在の研究所として拡充整備が行われ、環境や保健衛生に関する様々な試験検査、調査研究、情報提供、技術研修などの業務を行っております。

このような業務の中で、平成 22 年度の特徴的な取組としては、近年話題になっている大陸からの大気汚染物質の移流に関連して、「福岡市における乾性沈着成分と黄砂、煙霧との関係()」についての研究等を行うとともに、国、自治体との共同研究にも参画しました。

一方、保健衛生に関しては、平成 21 年度連日の過重の負担を迫られた新型インフルエンザも終息し、ほぼ正常業務となった時期に、「細菌性赤痢の集団感染事例」が発生し、原因の究明に取り組んでまいりました。

また、食の安全・安心に対する不安が高まるなか、「福岡市における食事からの硝酸塩一日摂取量調査」や「GC-MS/MS による牛肉中の残留農薬一斉分析法の検討」等の添加物摂取量調査や残留農薬等有害物質の試験法の開発について継続的な研究を行ってまいりました。

廃棄物分野では、循環型社会の構築を目指し、清掃施設の維持管理面からの研究を重点的に行ってまいりました。

このような広範な分野にわたる試験研究を長期的かつ積極的に実施した二人の職員が、平成 22 年度全国環境研協議会九州支部長表彰、並びに、平成 22 年度地方衛生研究所全国協議会九州支部長表彰を受けております。長期に渡る当研究所の試験研究の実績が高く評価された結果であると考えております。

今後とも市民の健康で快適な生活の実現に向けたより良い市民サービスの充実を図るため、職員一同、試験検査技術の自己研鑽に努めていく所存であります。

この所報は、平成 22 年度の当研究所の啓発活動、行政検査等の情報につきましても広く活用していただくことを目的としてまとめましたので、ご高覧のうえ、皆様の忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸甚です。

平成 23 年 10 月

福岡市保健環境研究所

所長 由衛 純一